

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 12月 日

【追加記載事項(陸上交通における地域間幹線系統のみ)】
・輸送量(当該年度計画・当該年度実績・平均乗車密度・運行回数)

協議会名: 半田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィードー

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間・整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査後討)の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C ・ 評 価	A ・ B ・ C ・ 評 価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんくろ「亀 崎・有協線」 日本福祉大学 日本福祉大 学	・地域の会合、大型商業施 設でのバス展示・乗車体験 イベント等を活用して普 及・啓発を図った。 ・亀崎・有協線改善のた め、地区バス会と不調原因 の分析や改善案として協 議を進め、改善策として令 和6年11月から半田市北 部地域におけるAIデマンド バスの実証運行を開始する 方針を固めた。 ・青山・成岩線において、 名鉄青山駅における夕方・ 夜の時間帯の名古屋方面行 き電車との接続改良のた め、ダイヤの変更を行っ た。	A 計画どおり、市内を大きく南 北に結ぶ基幹路線「半田・常 滑線」「半田北部線」と各地 域を結ぶ「亀崎・有協線」の 維持・確保を実施。	B 令和6年9月末時点の平均利用 者数は45/日であり、目標と実 績乖離の是正のため公共交通 会議の協議に基づき再設定し た令和5年度目標値49人を達成 することができなかった。 以下2路線と比較しても利用者 が少ないことから、引き続き 路線改善等を含む将来的な見 直しを進めていきたい。	住民にとってなくてはならない公共 交通の基盤となっていることから、 今後も事業の維持継続が必要であ るが、以下2路線と比較すると利用者 が少ないため、路線改善等を含む将 来的な見直し検討を進め、以下のと おり、利用促進策を実施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバ ス展示・乗車体験イベント等を活用 した普及・啓発、継続実施する。
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんくろ「半田 中央線」 パワードーム半田～知多半田駅～新 美南吉記念館	・地域の会合、大型商業施 設でのバス展示・乗車体験 イベント等を活用して普 及・啓発を図った。 ・亀崎・有協線改善のた め、地区バス会と不調原因 の分析や改善案として協 議を進め、改善策として令 和6年11月から半田市北 部地域におけるAIデマンド バスの実証運行を開始する 方針を固めた。 ・青山・成岩線において、 名鉄青山駅における夕方・ 夜の時間帯の名古屋方面行 き電車との接続改良のた め、ダイヤの変更を行っ た。	A 計画どおり、市内を大きく南 北に結ぶ基幹路線「半田・常 滑線」「半田北部線」と各地 域を結ぶ「半田・中央線」の 維持・確保を実施。	A 令和6年9月末時点の平均利用 者数は132/日であり、目標と実 績乖離の是正のため公共交通 会議の協議に基づき再設定 した令和5年度目標値131人を 達成することができた。 10月に行った商業施設での集 客イベントをはじめとした、 日々の普及・啓発に向けた取 組みによる利用促進効果が現 れているものと考ええる。	住民にとってなくてはならない公共 交通の基盤となっていることから、 今後も事業の維持継続が必要であ り、以下のとおり、利用促進策を实 施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバ ス展示・乗車体験イベント等を活用 した普及・啓発、継続実施する。
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんくろ「青 山・成岩線」 君ヶ橋住宅～青山駅～君ヶ橋住宅	・地域の会合、大型商業施 設でのバス展示・乗車体験 イベント等を活用して普 及・啓発を図った。 ・亀崎・有協線改善のた め、地区バス会と不調原因 の分析や改善案として協 議を進め、改善策として令 和6年11月から半田市北 部地域におけるAIデマンド バスの実証運行を開始する 方針を固めた。 ・青山・成岩線において、 名鉄青山駅における夕方・ 夜の時間帯の名古屋方面行 き電車との接続改良のた め、ダイヤの変更を行っ た。	A 計画どおり、市内を大きく南 北に結ぶ基幹路線「半田・常 滑線」「半田北部線」と各地 域を結ぶ「青山・成岩線」の 維持・確保を実施。	A 令和6年9月末時点の平均利用者数 は120/日であり、目標と実績乖離 の是正のため公共交通会議の協議 に基づき再設定した令和5年度目 標値121人を達成することができ なかった。 目標値としては未達であったもの の、利用者数は概ね右肩上がりで 推移しており、10月に行った商業 施設での集客イベントをはじめと した、日々の普及・啓発に向けた 取り組みによる利用促進効果が現れ ているものと考ええる。	住民にとってなくてはならない公共 交通の基盤となっていることから、 今後も事業の維持継続が必要であ り、以下のとおり、利用促進策を实 施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバ ス展示・乗車体験イベント等を活用 した普及・啓発、継続実施する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6 年 1 2 月 日

協議会名：	半田市地域公共交通会議	
評価対象事業名：	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域内ライダーシステム）	
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	別添 1 - 2 は、補助対象事業ごとに作成してください。 例：地域内ライダーシステム補助と、調査事業（計画策定）を同時に実施している協議会は、補助対象事業ごとに作成する。 ・半田市では、「おでかけ環境が充実した 住み続けたいまち 半田」を交通将来像として掲げ、以下の基本方針に沿って目標の実現を図ります。 ①半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編 ②半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実 ③各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保 ④関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築	

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

半田市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和5年10月～令和6年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
市内の路線バス利用者数 1,100人/日（H28年度） →1,300人/日（R6年度） ※目標と実績乖離の是正 のため公共交通会議の協 議に基づき再設定した目 標値 983人/日（R5.4.1～ R6.3.31）	・市公式LINEで路線、時刻表を閲覧可能に ・地元バス会との協働や地元企業と連携した普及啓発 ・住民意見を基にダイヤや経路等の変更、バス停留所の新設、移設等の路線改善	運行事業者及び市が有する乗降データ及び実績値を用いて計測	【目標達成】1033人/日 (R5.4.1～R6.3.31) ①地元バス会との地道な広報活動や、利用促進イベントの企画等の強化 ②地域のニーズに合わせた既存路線のダイヤや経路の変更、バス停留所の移設、新設等の路線改善	・不調路線の要因や、住民からの要望を精査し、地元バス会との協議を重ね、路線の最適化を図る。 ・地元バス会と協働し、バス利用者の実際のおでかけ事例を紹介する広報の実施するなど、公共交通をより身近に感じ（継続）利用につながるようなPRを実施する。 ・残存する交通空白地域への取組として、引き続き、住民ニーズに沿った公共交通のあり方について協議・検討を進めていく。 ・子育て世代や、学生など、若年層にも更に公共交通を利用頂くために、運賃無料対策範囲の拡大について協議・検討を進める。	

（記載に当たったの留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価にないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。